成人急性上咽頭炎症例における細菌学的検討

冨 山 道 夫

とみやま医院

突然咽頭痛が発症し内視鏡所見で上咽頭粘膜に発赤腫脹と膿付着を認める症例で，アデノウイルス感染症，インフルエンザ感染症，伝染性単核球症が否定された症例を急性上咽頭炎と定義し，細菌学的検討を行った．対象は 2009 年 1 月から 2010 年 12 月までの 2 年間に当院を受診した急性上咽頭炎症例のうち，鼻腔，中咽頭に炎症所見を認める症例を除外した 88 名である．上咽頭の細菌検査は，内視鏡下にカルチャースワッププラス 0（日本ベクトン・ディッキンソン）を経鼻的に挿入し上咽頭に付着した膿より検体を採取した．検出菌の分離同定および薬剤感受性試験を実施した．その結果計 115 株が検出され，内訳は β 溶連菌 8 株（7％），*S. pneumoniae* 3 株（3％），*S. aureus* 11 株（9％），*H. influenzae* 39 株（34%），*H. parainfluenzae* 33 株（29%），*H. parahaemolyticus* 2 株（2％），*M. catarrhalis* 19 株（16%）であった．過去の急性口蓋扁桃炎の検出菌に関する報告と比較すると，β 溶連菌の検出率が低く *H. influenzae*，*H. parainfluenzae*，*M. catarrhalis* の検出率が高かった．cefditoren は β 溶連菌，*H. influenzae*，*H. parainfluenzae*，*M. catarrhalis* の 4 菌に対していずれも MIC90 が 0.5μg/ml 以下と良好な感受性を示した．